

日付:2016年6月19日／聖書:マタイによる福音書5:8～10

説教:「平和建設者」

「平和を実現する者」とは、原語で「エイレーノ・ポイオス」という。これは「エイレーネー」(平和)と「ポイエオー」(造る・建てる)という言葉からなっている。

「エイレーノ・ポイオス」は一つの単語であるから、ここは「平和実現者」とか「平和建設者」という一つの単語として翻訳した方が良かったのではないとも言われている。実はその方がこの言葉の背景からすると、正確に伝えられるものである。「平和建設者」…当時、この「平和建設者」は、イエスがはじめて使った言葉ではなく、以前から使われていた言葉であり、それは圧倒的な軍事力と政治力で、いわゆる「ローマの平和」をうち立てた皇帝アウグストゥスを賞賛する称号として用いられた言葉であった。「アウグストゥスこそ、平和建設者、エイレーノ・ポイオス」とであると民衆に呼ばせたのである。イエスはあえてその言葉を使うのであるが、しかも「その人は神の子と呼ばれる」とも言っているこの「神の子」という言葉もまた、皇帝アウグストゥスが民衆に強制的に呼ばせていた言葉であった。

イエスは何故、その言葉を用いたか？ それは、この世に対する風刺、批判であり、そのような武力、暴力、権力による平和など、まことの平和ではないということの批判であったであろう。また、この言葉が語られた前後関係の中で理解するならば、「平和を実現する人々」という言葉は、「心の貧しい人」や「悲しむ人」「義に飢え渴く人」「義のために迫害される人」という者たちの中に置かれている。つまり、イエスの言う「平和建設者」は、貧しく、飢え渴き、悲しみ、迫害されている人々の側にあるということ。莫大な富を持ち、正義を独占し、正義を振りかざして支配し、反対する者を迫害する、そういう側に、イエスは平和を実現する者を想定していない。

つまり、イエスはこう言おうとされたのではないか。「世の中では、ローマ皇帝が平和建設者と讃えられ、神の子を名乗っている。しかし本当の平和建設者は、あなた方なのだ。貧しく、義に飢え渴く、あなた方、まことの義を求めるゆえに迫害されるあなた方、あなた方こそ平和建設者であり、あなた方こそ神の子である」と。(神谷)